

平成21年度 第1回 西木地域審議会会議録

一、日 時 平成21年7月2日（木）午後2時

一、場 所 「西木総合開発センター 集会室」

一、会議に出席した委員

門 脇 彰 一	門 脇 トキヨ	小 林 清 司	小 林 康次郎
澤 山 純 一	大 澤 博 公	鈴 木 重 蔵	浅 利 重 昭
山 田 佳 穂	中 村 清 春	門 脇 光 郎	

一、会議を欠席した委員

武 藤 晟 平 佐 藤 雄 孝 鈴 木 定 平

一、会議に出席した職員

西木地域センター長	田 口 正 明
企画政策課長	高 橋 新 子
総合窓口課長	新 山 敦 晃
農林課長	佐 藤 秋 夫
観光課長	大 澤 清
重点プロジェクト推進室長	伊 藤 寛
企画政策課主査	阿 部 聡
総合窓口課総務班長	浅 利 喜一郎

一、会議次第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
「農林業と観光」について
- 4 閉 会

一、新山総合窓口課長が開会宣言 (午後2時)

欠席委員を報告し、定足数に達している旨報告する。

一、門脇（彰）会長あいさつ

ご多忙の折、ご参集いただきましてありがとうございます。一言申し上げます。

平成 20 年度の 3 回の審議会の中で、皆さんにお渡ししている資料の 2 頁から 9 頁について審議いたしました。その中で、メインテーマとして当地区では「農林業と観光」、そしてまた、サブテーマとして「グリーンツーリズムの推進や事業連携による地域活性化」という内容で、20 年度 3 回目の審議会を終えてございます。

西木地区の基盤である「農林業」での所得の安定、「観光」との連携による雇用の創出、グリーンツーリズムでの都市交流や地産地消による収入の安定等、地域が活性化するには、地域が生きていくためには、どうしたら良いのかを本日から審議していただきたいと存じます。

今回は、農林課・観光課・重点プロジェクト室から今年度の事業内容や施策について、お伺いし、西木地区においてのその内容について検討をして参りたいと思います。今後 2 回の開催で取りまとめて、市長へ意見として述べるということになります。本日は、結論を出すという審議会の内容にはならないと思いますが、出来れば三方の話を受けた後、質疑・質問して終えたいと思います。

一、議 事

一、新山総合窓口課長

議事に入る前に、4 月の定期異動で変わりました職員及び出席している 3 人の課長を紹介する。

一、門脇(彰)会長

暫時審議会の議事の進行を勤めさせていただきます。挨拶でも申し上げましたとおり各課の主要事業等について、ご説明を受けたいと存じます。最初に農林課の佐藤課長をお願いします。

一、佐藤農林課長

平成 21 年度の農林課の主要事業ということでご説明申し上げます。

地産地消推進事業 これは市の単独事業でございます。これは、特産品を使用した料理コンクール及び料理教室の開催による地産地消の推進ということで、定期的には今年度の産業祭、10 月に開催しますけれども、西木地区で開催する予定で進めております。そのときに料理コンクールを実施したいと考えております。

2 つ目の、流通対策推進事業ということで、新規に直売所を開設したり、農家が事業を実施しているものについて、業務を拡大のために投資する方に助成するということです。新規に事業を開設する場合は、25 万円を上限に 2 分の 1 の助成をする。業務の拡張につきましては、同じく 25 万円上限ですが、3 分の 1 を助成するというものでございます。

それからどぶろく特区に係る新規提供のための助成事業ということで、仙北市がどぶろく特区になっておりますけれども、まだ醸造免許を取得された方はおりません。これにつきまして、初めての取り組みですので 30 万円を限度に助成し

ていきたいということでございます。

3 番目の中山間地域直接支払交付金ということで、傾斜のきつい農地や農道・水路の維持管理の管理費の助成、それから農地の集積や共同作業に対する助成で、平成 19 年度から実施しております。仙北市内 17 集落で実施しております。

4 番目の子ども農山漁村交流プロジェクト事業、これは文部科学省・農林水産省・総務省の合同事業でございます。仙北市全域が受入れモデル地域となり、受皿となる組織の構築や受入れプログラムに係る調査研究を行うということで、受入れ農家戸々への助成ではなくて、受入れ農家を育成するための事業ということで、それぞれ研修・講習を実施しております。色々消防法とか、食品衛生法とか、救急救命とか、虫さされの応急処置とか、そういう形の講習会ということで、今年は、6 月 17 日に 1 回実施しており 35 名が参加しております。プロジェクト事業として昨年から実施しておりますが、昨年は、秋田県内から 4 校の小学校の子ども達が仙北市を訪れております。東京から呼ぼうということで、全部で 96 人の子ども達が、受入れ農家 13 戸で受入れて交流を図っております。

5 番目の今こそチャレンジ農業夢プラン応援事業につきましては、県の補助事業でございます。今 27 経営体と書いておりますけれども、これは組織が 4、個人が 23 ということで、これらの方々が新規事業・事業拡大を行うときにパイプハウス、大豆管理機、ネギ管理機、繁殖牛の導入等に 2 分の 1 の助成しながら応援する事業でございます。

6 番目の売れる米作り推進事業、これは今、食の安全・安心が叫ばれて久しいわけですが、減化学肥料使用米ということで、J A・集荷業者・特別栽培米を独自に研究をされているグループの方々に対し、付加価値を高めた米の生産拡大を目指すということで進めております。

7 番目の桧木内地区中山間地域総合整備事業、桧木内地区で行っている事業で、農道が 1 路線、水路が 3 路線ということです。平成 20 年度までの整備済み路線ですが、農業用用水路 21 路線、農道・集落道が 14 路線、集落排水路が 3 路線ということで整備されております。

8 番目の農地・水・農村環境保全向上対策事業、これは仙北市内 31 地区で 2,220 ヘクタール実施されております。田沢湖地区 11 地区、角館地区 11 地区、西木地区 9 地区で平成 19 年度から 23 年度の事業でございます。

9 番目の市有林造林保育費ということで、市有林の除伐・間伐等の管理事業でございます。枝打ちと間伐 15 ヘクタールを行う事業でございます。西木地区の市有林が対象となっております。

10 番目の森林整備地域活動支援交付金事業、これは 45 年生以下の人工林を対象に、対象面積が 5,709 ヘクタールを整備するもので、平成 19 年度から平成 23 年度までの予定でございます。

1 1 番目の植樹・育樹ふれあい支援事業、これは6月27日に第1回目を実施しておりますけれども、都市住民ボランティアと市民が森林作業を通じて、森林保護、水源涵養等の効果を図ると共に、市民による森林活動の自主的参加を推進するということで、協議会・広報活動等の作業を行っております。

1 2 番目の農業集落排水事業、田沢地区での実施でございます。工事は今年度で完了し、平成22年度から供用開始の予定です。

1 3 番目の家畜導入事業、家畜の改良促進、優良子畜生産基盤の確立に資するための家畜導入支援事業で、優良雌牛導入事業・優良乳用牛導入事業・肥育素牛導入事業・自家保有牛ということで実施しております。

1 4 番目の放牧預託事業でございます。西木地区の大覚野牧場への放牧に対する助成でございます。これは、100頭を140日間放牧する農家への助成です。

1 5 番目の頭首工改修事業でございますが、老朽化した頭首工の改修事業の調査費でございます。今年度2カ所調査します。角館地区1カ所と抱き返りの橋の上流の頭首工、吊り橋の上流です。この頭首工の改修を計画してまして、その調査費でございます。

1 6 番目の今年度仙北市の目玉事業ですけれども、木質バイオマス施設建設事業ということで、新エネルギーとしての製材所等からの出た端材等を利用して、チップ化した端材をガス化し、そのガスでエンジンを回して発熱する方法でございます。これは、西木地区のにしき園とクリオンの間の土地に建設して、にしき園とクリオンに電気と熱エネルギーということで、クリオンの温泉の加熱、にしき園の暖房等に利用するという進めております。これは、21年度単年度事業でございます。6億6千3百25万円の事業費でございます。

主要事業ということで以上でございます。

一、門脇（彰）会長

ありがとうございました。前段申し上げたとおり主要事業について、質問を許します。

一、門脇（光）委員

10番目の森林整備地域活動支援交付金事業ですが、45年生以下の人工林が対象ということですが、間伐とかですか。

一、佐藤農林課長

この事業は、対象林として5,709ヘクタールでございます。事業の内容は、山のハード部分、間伐・除伐・枝打ちだけではなくて、山の見回り、境界の確認とかに要する経費にも交付金がかかるということで、それで確認された地域の枝打ち、それを効率よく作業するためには、作業道を開設した方が良くすれば簡易の作業道も対象となるという事業で、個人で実施していくものはございません。森林組合とか、林業の会社とかが実施する事業です。1ヘクタール当たり5千円

の補助がくるということです。

一、澤山委員

1 番目の特産品のコンクール及び料理教室の開催による地産地消の推進という
ことですが、例えば家庭で作っているものに手を加えてやるとかということだと
思うが、予算というものはどのくらいですか。

一、佐藤農林課長

これは、産業祭の中で皆さんからコンクールとして出していただいた物を審査
して、特産品になるのではないかという物を探すということで、新たに特産品を
開発するということではございません。予算的には些かなものでございます。

一、澤山委員

色々な部署で予算措置していると思うが、一つの商品として開発して行くには、
2 万・3 万じゃ出来ないと思うが、また一つの物を開発するという意気込みで、
観光と結びつけるようなシステムづくりもまた大事じゃないのかなと思います
が如何ですか。

一、伊藤重点プロ室長

地産地消の一環としてですけれども、重点プロジェクト推進室と農林課と連携
して、宿泊施設・飲食店等の関係者を集めまして、仙北市としての名物料理、地
元の特産品を使った講習会をこの後開く予定としております。

地産地消絡みでいくと宿泊施設の板長さんとか、そういう方々から集まって
いただいて、行いたいと思っております。

一、澤山委員

例えばその中で、子ども達を受け入れて民泊させるとかを今やっているよう
ですが、プロジェクト推進室で、各関係団体をまとめて、より充実した形のものを
作って行かなくちゃならないんじゃないかと思う。総額では1 千万円あるが、各
課で見ると5 0 万とかそういう額になってしまうので、もしかすると無駄使いに
なりかねないので総合的に考えて欲しい。

一、門脇(彰)会長

澤山委員の意見としては、地産地消だけではなくて、新しい特産品の開発も必
要なんじゃないかという意見のようです。次の質問をどうぞ。

一、小林(康)委員

1 6 番目の木質バイオマス施設建設事業についてお尋ねします。これは雇用促
進にもつながると思います。どれくらいの雇用をしてくださるのか。また、6 億
何千万円をかけて経済効果といいますか、例えば電気料がどの位になるのか、ざ
っとで結構ですので教えてください。

一、佐藤農林課長

チップ化した物を炭にするんですが、炭になるときにガスが発生しますので、

そのガスをエンジンに送って、エンジンで発電機をまわして発電するという仕組みです。発電の規模は300キロワットという発電能力ですので、人間的に最もコストのかからないようにするという事で事業を進めておりますので、最終的には原材料搬入のための運転員とか、機械の技術者等をおいて3名位の予定でございます。試算では、15年で元が取れる試算となっております。余った電気を売る単によって金額が違ってきますので、申し訳ありませんが一概には申し上げられないのが現状です。

一、小林(清)委員

岩手県の葛巻町では、125キロワットの施設があるが、今は休んでいる状態で、こちらの施設でも持ち出しはあると思う。

一、小林(康)委員

北秋田市でも行っているが、あちらと比べてどうですか。

一、佐藤農林課長

北秋田市の施設は、燃やす施設ですが、こちらはガス化ということでそこが違います。

一、大澤委員

東北電力から買うよりは安く出来るんですか。

一、佐藤農林課長

安く出来ます。ただ、原料の単価によります。

一、澤山委員

森林整備に5,700ヘクタール位行いう訳なんで、そうするとそこに間伐材とかが出てくる訳なんで、今までは切り捨ての状況のようですが、それを利用できれば材料の供給にもなるし、山の整備にもつながると思う。

一、佐藤農林課長

原料の確保をいかに低コストで行うかを検討しているところです。

一、小林(康)委員

行政に期待しているので、低コストで成功するようによろしく願いしたい。

一、門脇(ト)副会長

補助はどのようになっていますか。

一、佐藤農林課長

国から2分の1です。

一、鈴木委員

この施設で、一日稼働するとすればチップでどの位必要ですか。

一、佐藤農林課長

10t車1台で3日位です。

一、小林(清)委員

将来プール建設の計画があるようだが、水を電熱で温めるという計画はあるか。

一、佐藤農林課長

今のところ考えておりません。

ただ、ガス化した場合に電気エネルギーと熱エネルギーを比べた場合、熱エネルギーの方が余ります。ですから利用は可能だと思います。

一、澤山委員

ガスの方が効率が良いのか。

一、佐藤農林課長

CO₂の面とかを考えると、排気物が少ないのでガス化した方が良い。

一、澤山委員

中山間5年目ですが、これ以降どうなりますか。

一、佐藤農林課長

継続されるか、されないかはっきりしていません。

一、門脇(彰)会長

最後にも質問受けたいと思いますので、次に観光課長お願いします。

一、大澤観光課長

観光課からは、平成21年度の観光施策の方向と主要事業ということで資料を提出しております。

観光施策の方向としましては、昨年からの人の入り込み状況等をお話ししながら説明したいと思います。

昨年につきましては、丁度今頃地震がございまして、直接の被害は無かったわけですが、秋田県全体が地震になったんじゃないかという風評等、平成20年は平成19年の観光客と比較しまして12%程の減少になりました。20年で52.5万人という人出となっております。また、今年に入りまして3月までにつきましては、前年からの景気の低迷ということもありまして、20年と比べて97%程の入り込みとなっております。4月以降につきましては、4月・5月までの桜祭り・ミズバショウ祭り・カタクリについて、天気状態が良かったこともありまして、前年比で108%となっております。

また、6月11日には新型インフルエンザ患者が仙北市から出まして、秋田県内では大きな話題になったわけですが、大きな広がりもなかったため影響は出ておりません。

観光客の入り込みの目安としまして、角館の有料駐車場がございすけれども、そちらの状況ですが、4月から6月までの利用状況としましては、昨年と比べまして1割程伸びております。少し伸びが大きいわけですが、大型バスにつきましては減少傾向にあります。特別な理由はないと思いますが、昨年が少なかったせいかなあとも思っております。

予算関係では、当初予算で大きな伸びは特にございませんけれども、国の雇用対策とか経済対策ということで、国の交付金を財源とした補正予算も行っております。

次に今年の主要事業ということで、観光資源の掘り起こしということでございます。重点プロジェクトの方で行っておりますけれども、まだ一般的に知られていない、埋もれた観光資源というものがまだ沢山あるんじゃないかということで、一般募集したところ17の提案がなされております。それらの提案の中身を見ながら、新たな商品として検討していきたい。

それから観光庁の観光圏整備事業です。これは2泊3日以上滞留型観光を促進するというので、国全体では現在30カ所ほどが観光圏の指定を受けています。秋田県では、にかほ市が山形県とか新潟県のつながりで、今年の3月に指定を受けております。現在は、秋田市が先になって秋田市・雄勝・平鹿・仙北・由利本荘ということで、そういう一つの枠組みでやったらどうかというような話がこの前されております。

2番目の観光基盤・交通アクセスということで、刺巻のミズバショウ木道整備、これにつきましては、国の経済危機対策の臨時交付金等をあてて行います。

次に公衆トイレ洋式化等工事ということで、一般家庭でも洋式化が進んでおりますが、公衆トイレの洋式化を20器程ですけれども、田沢湖畔並びに武家屋敷周辺から交換したいと考えております。

次に抱返り遊歩道トンネル照明設備ですけれども、トンネルの中が暗くてよく見えないので、消費電力の少ないものを設置したいと考えております。

次に緊急雇用事業による自然公園等の整備ということで、国の緊急雇用の創出事業によりまして、田沢湖畔・抱返り溪谷周辺の環境整備を目指す。

次に抱返りシャトルバスですが、抱返りの紅葉祭が10月中から11月の中頃までの1ヶ月位ありますが、その時期に1日4往復ですけれども、現在角館駅からゆぼぼまで運行しておりますので、その車輛を抱返りの駐車場まで延ばして運行するというのでございます。

次に乗合タクシーの運行ということで、重点プロジェクトの方から後で説明があるかと思いますが、内陸線松葉駅から田沢湖駅を経由して乳頭温泉郷までの乗合タクシーを運行するというのでございます。

次に観光モデルコース検索システムですけれども、市のホームページに予めモデルコースを載せまして、観光客が予め仙北市を訪れる前に観光情報を把握してから来ていただくということです。

次に3番目として受入れ態勢づくりということで、接客等観光研修会、これは何回も行われているわけですけれども、お客様から何回も来て貰いたいということも含めまして、研修会を開催しております。

次に市民等向け観光ガイドブックということで、観光関連の事業所の従業員を対象にしまして、どなたでも仙北市内の簡単な観光案内は出来るように、仙北市内全体を網羅したガイドブックの作成をしたいと考えております。

それから4番目としまして、観光情報の発信と情報の収集ということで、首都圏でのキャンペーン・キャラバン、これは毎年行っておりますけれども、県の観光課・観光連盟との合同の開催、或いは広域の観光協議会を作っておりますけれども、雫石町とか北秋田市との合同キャンペーン。みちのく三大桜名所で、北上の展勝地、弘前と協議会を作っておりますので、桜の時の誘客を進めたいと考えております。

それから観光アンケート調査ということで、観光客のニーズを把握するために今年も秋口に実施したいと考えております。

次に温泉ガイド・観光パンフレット等作成ということで、温泉ガイドにつきましては、市内の温泉施設をエリア別に分けまして、作成したいと考えております。

ふるさとサポーターの募集、PR活動ですが、重点プロジェクトの方で進めております。企業誘致・定住促進・観光PRなどにお手伝いをしてもらう人を募集しておりますが、首都圏でのPR活動・情報の収集等のボランティアをお願いするので、現在52人が登録されております。

5番目ですが観光と他産業の連携ということで、農産物販売情報データベース、これは農産物とか農産加工品の販売情報をインターネット上に、ホームページ上に掲載しております。

次に特産品料理教室は先ほどお話したとおりです。

次に山の楽市での特産品販売ということで、旧田沢湖町が平成7年から実施しておりますけれども、相模鉄道の二俣川駅構内で今年も11月中旬に実施する予定です。

6番の体験型観光。農業体験や教育旅行の受け入れということで、去年は、主に樺細工の体験とかイタヤ細工体験とございますが、30校程来ております。小学校で10校、中学校で20校、一般の方は316人ほど参加しております。

次の子ども農山漁村交流プロジェクトは、農林課の方から説明があったとおりです。

次の教育旅行誘致キャラバン、仙台・北海道の中学校関係、それから旅行業者を訪問するというので6月下旬には、仙台に行って参りました。この後7月には、北海道札幌方面へ行って参りたいと思っております。北海道には、男鹿市・鹿角市との合同のキャンペーンとなります。

次に農業体験受入農家の開拓ということで、これは農林課と協議しながら新たな受け入れ農家を招致したいと考えております。

7番目の国際観光ということで、海外エージェント商談会、これは県の観光課

とか観光連盟主催で、台湾とか韓国、ヨーロッパ地区も何人か来ておりますが、旅行業者が来て誘客しているときに商談会に参加して、仙北市の観光事情とかお話ししております。

次に海外(台湾・韓国・香港等)観光宣伝・誘客事業ですけれども、ふるさと雇用再生臨時対策事業で、田沢湖の観光協会で8月から韓国語・中国語・英語の会話の出来る方を2名ほど雇用しまして、外国向けホームページを開設して、海外旅行の業者等に働きかけて誘客を図るということでございます。

最後に外国人を対象とした観光のアンケート調査ということで、ノースアジア大学の協力も得ながら、外国人向けの観光アンケートを実施したいと考えております。以上です。

一、門脇(彰)会長

観光の主要事業について、質問を許します。

一、佐藤農林課長

先ほどの申し上げた内容を訂正させていただきたいと思います。木質バイオマスのチップの使用料というお話ございましたけれども、年3, 332トンということですので、一日の使用料は約10トンの使用料になるということでございます。

それから、発電と熱量の関係で、どの位で何となるかというお話でしたけれども、総発電量が年間1, 914メガワットという電気が出るそうです。電気を発電するために発電所が使う電力料が362メガワットです。ここでクリオンとしき園へ送る電気は1, 008メガワット、余る電気が185メガワット、これが電力さんに売る電気ということで、この単価によって儲かるかということになります。

それから熱の方ですけれども、熱の発生量が423キロワットだそうです。このうちチップの乾燥だとかというものに使う熱量が、208キロワットで、これで残りを温水にした場合に215キロワット供給できるということのようです。

一、門脇(彰)会長

暫時休憩します。(午後3時5分)

一、門脇(彰)会長

休憩前に引き続き会議を再開します。(午後3時10分)

一、大澤委員

JR角館駅の東側から今の西側に通じる連絡通路があれば利用価値が出てくるんじゃないかと思います。

それから、昨年はこの会議でお願いしたことなんですが、内陸線の最終時間を1時間ぐらい遅れさせてもらえればということをお願いしたところ、早速ダイヤ改正の際に聞いてくださって、お陰様で、大曲の高校に通う子どもが内陸線の最

終で通えるようになりました。それと阿仁森吉方面の沿線住民の方が東京発6時の新幹線に乗れば、内陸線で家に帰れるということで、また別の効果も出てきたんではないかと思います。大変ありがたく思ってます。そういう良いことがありました。

一、高橋企画政策課長

駅の東口、広場と駐車場出来てますが、あれを作るときに表(正面・西側)と東側を繋ぐ案が出たようでした。ところが通路を設けるということになると、改札口をこちら側にももう一つ設けなければならないということと、景観上の問題がありまして、つなぐ位置をずらさなければならないということで、10億単位のお金がかかるということのようでした。それで東口を整備するときに繋ぐのは断念したというような経緯があったようです。

だけれども今また東口の駐車場や広場の有効利用ということで、再度お話が出てきてますから、都市整備課の方で再度検討するということになってますが、何れJR側との話になってきて、JR側ではJR単価というものになってきて高い単価があるそうなんです。結局いいなりの値段での工事になるということがあるらしくて、そこいらへんの事業費の折り合いがつかないと言うことのようでした。

一、佐藤農林課長

合併前に担当しておりましたので、あそこの広場は、駐車場につきましては、管理がJRです。作るには当時の角館町で作りましたけれども、JRの土地を使わせて貰ったということで、協定広場ということで、JRの土地です。

一、門脇(ト)副会長

6番の体験型観光というのがありますが、4つ目の農業体験受入農家の開拓というのがございますが、この前のナビに7月15日にベテラン講師を招いて勉強会が行われるということが載っておりましたが、一軒でもそういう農家を増やすということになれば、今回のサブテーマのグリーンツーリズムの推進事業としては、良いことだと思いますので、私も聞きに行ってみたいと思っていますところですけれども。

一、佐藤農林課長

誰でも参加していただきたいということで、農林課で開催しております。先ほどもお話ししましたが、6月17日に講習会を実施しております。受入農家にそれぞれ、自分ではこれで良いだろうという形でやっていただいても必ず後から問題が起きますので、この講習会では、これからやろうという人35人の方に参加していただいております。仙北市以外から見えられて、秋田県の花まる協議会というところでも、この講習会を実施しておりますので、その都度お知らせナビ・広報等でお知らせしたいと思いますので、ご参加いただきたいと思います。興味のある方はお早めに申し込んでいただきたいと思います。

一、鈴木委員

2 番の中に乗合タクシーの運行とありますが、これはどのような方向で検討されているのか説明をお願いしたい。予約制とか、随時松葉駅で待っているのか。

一、伊藤重点プロ室長

これは市内のタクシー会社の方が許可を頂きまして、1 回 2 人以上 2 時間前まで予約していただきまして、各コースとも内陸線の時間に合わせて予約していただくと、それに伴って松葉から田沢湖畔を経由し乳頭温泉郷まで利用していただく中で、低価格で提供しています。4 人乗れば市からの援助は出ないんですけれども、2 人だと市から幾らかがタクシー会社に出ると、残った分の通常メーター運賃の残の利用者からお金を頂いた残りの分ですけれども、4 分の 3 が市で 4 分の 1 がタクシー会社が負担すると、そういうふうな制度で進めておりまして、19 年度は取っかかりでしたので、31 人の利用でしたけれども、20 年度は 71 名の方に利用していただいております。

一、澤山委員

インターネットの観光案内に載せてあるのか。オールシーズンですか。

一、伊藤重点プロ室長

載せてあります。去年は 7 月から 3 月 30 日まで。今年は本格運行するために今色々準備しております。利用者も結構伸びてきておりますので。

一、佐藤農林課長

7 月 15 日の件について、大変勉強不足で申し訳ございませんでした。農林課の実施するものです。この講習会というのは、実際に今農家民宿を実施されている方が、今後新たにやろうとする方々に教えると、こういうふうになれば許可等が出るというようなお話。それから受入拡大のために仲間を少しでも増やしたいというのもございますので、参加していただきたいということで、ゆぼぼで 7 月 15 日の午後 1 時 30 分から 3 時まで実施するということでございます。参加は無料です。会場等の都合がありますので、お早めに農林課の方へ申し込んでいただきたいと思います。

一、門脇（彰）会長

時間の関係もありますので、重点プロジェクトの説明をお願いします。

一、伊藤重点プロ室長

それでは資料に従いまして、定住対策並びにテンミリオンについて、各説明して参りたいと思います。

初めに定住対策ですけれども、定住対策といっても施策が多岐に渡っておりますので、その中で平成 19 年度に市内の空き家の有効活用ということで、市内 3 地区をモデル地区として、田沢・上桧木内・白岩地区の空き家の調査を実施しました。3 地区で 65 軒が確認されまして、その中で当西木町上桧木内地区では 1

6軒が確認されました。その中で所有者の意向など了解を頂いて、空き家情報バンクに載せました軒数は3軒ということでスタートしております。現在首都圏などから田舎暮らしがしたいということで、平成19年度から36名の方が仙北市に移住されております。その内西木地区には12名の方が移住されており、また2地域居住者として2名がおります。その他ですけれども、今現在の西木地区からの空き家の登録は、8軒という状況になっております。

それと定住絡みですけれども、仙北市に定住・交流を希望される方を対象としましたスローライフモニターツアーを2泊3日で実施しております。今年も9月の下旬と来年の2月に2回行いたいという予定で進めております。平成20年度におきましては、定住促進の奨励金交付制度を作りまして、移住者への新制度を設けたと、それと後は首都圏ふるさと会の会員を中心にしまして、企業誘致や定住促進・観光PR・物産の販売等幅の広い仙北市の応援団として活動をお願いします、仙北市ふるさとサポーター制度を作りまして募集しましたところ、52名の方からご登録いただきまして、先般6月の下旬ですけれども、首都圏近辺に住んでおられる方が40数名おられましたので、首都圏で発足のためのサポーター会議を開催しまして、今年度から色々な分野で活動していただくということになっております。因みに西木のふるさと会の会員からは、6人の方からご登録いただいております。

21年度におきましては、色々やってきました空き家情報バンク並びにスローライフモニターツアーなど、仙北市の恵まれた環境や知名度を活かしまして、首都圏での移住の相談会、更には全国へ情報の発信を強化していくということで現在進めております。

次にテンミリオン計画プロジェクトでございますけれども、所管の観光課と連携して進めております。平成19年度につきましては、交流人口1千万人を目指すための観光振興の方向性を示した観光振興計画を作成しております。後は先ほどお話しができましたけれども、観光地間を結ぶレジャー施設の構築を図るための調査としての乗合タクシーの運行と、また市内の一般に知られていない風景とか自然・イベントなどの観光資源について、市民の方々から情報を募りまして、それを今後観光施設に活用していくために、データベース化しホームページで情報発信してまいりたいと思っております。

また20年度におきましては、男鹿和雄展がテンミリオン計画プロジェクトの一つとして位置づけられて実施されております。

21年度の取り組みとしましては、乗合タクシーの2次アクセス事業並びに観光モデルコースの開設等、またふるさとサポーターから協力をいただきながら県内外でPR活動をしていくという予定にしております。

次に産業連携プロジェクトについてご説明したいと思います。この産業連携プ

プロジェクトにつきましては、仙北市の特色ある資源を活かしまして、産業全般の振興を図る目的ということで、所管の各課の方と連携して現在取り組んでおります。付加価値の高い農林産物の生産や販路の拡大、地産地消の推進、地場産業を利用した特産品の開発、都市と農村の交流促進、特産品の首都圏へのPRなど、インターネット使用による販路拡大を目指して現在取り組んでいるところでございます。

平成19年度初年度でございましたけれども、市内の現状の調査をしましょうということでアンケート調査を実施してございます。一つめとしまして、直売所の現状、直売所で抱えている問題・課題等はどんなものがあるのかということアンケート調査しましたところ、会員の減少、売り上げが伸びない、会員の高齢化、宣伝不足、商品不足等が上げられておりました。このアンケート調査しました結果を基に直売所の皆様から出ていただきまして、販路拡大について話し合いをしましたところ、農産物の生産とか販売に関するデータベース的な情報提供システムを作ることが出来ないかと、また地場産品を使ったメニューの開発等、色々な意見を頂いております。

2つ目としまして、市内の飲食店・宿泊施設に対しまして、地産地消に関する地場産農産物の需要状況調査のアンケート調査を実施いたしました。その中で地産地消へ関心があるかと聞きましたところ、7割が関心があると、また地場産品を実際に活用しておりますかと聞きましたところ、9割が活用しているというふうに回答されております。地場産品を活用されている理由としては、品質が良い、入手しやすい、価格が安い、というようなことのようにございます。今後地産地消を進めて行くにはどうしたらよいでしょうかとお聞きしましたところ、地元で誰が何を作っているか知りたいと、生産物の収穫時期の把握ということのようでした。その他にもまだありますけれども。この調査結果を基に所管の官庁・農林課・商工課とも協議してございます。

3つ目としまして、プロの農業者であります認定農業者の方を対象とした調査をしましたところ、仮に市のホームページ内に農産物等の販売情報コーナーを設けた場合、情報を提供していただけますかとお聞きしましたところ、半数以上の方が情報は提供できますよというような回答をいただいております。後はアグリビジネスへ取り組んでみたいかとお聞きしましたところ、取り組んでみたいと答えた方も33%となっております。

この3つのアンケート調査を基にしまして、関係課へ協議しながら、20年度において、市のホームページへリンクした農産物販売情報データベースの構築を行いまして、市民の方または市内飲食店や宿泊施設、学校給食、更には全国の消費者へ仙北市の農産物の販売の情報の発信を行うということで、皆様へ「仙北市の農産物・加工品の販売情報をご紹介しますホームページが出来ました」というこ

とでお渡ししてございます。消費者の方はこの情報を基に、生産者の方へ連絡を取って購入するというような中身になります。このシステムにつきましては、7月号の広報または7月中旬に出ますお知らせナビで、市民の皆様に周知したいということで進めております。このシステムは、検索システムを取り入れておりますので、県内では仙北市が初めてでございます。ですから、内容も充実しているのではないかなと思っております。この後皆様にご利用していただきたいと思っております。

21年度の取り組みの所に5月現在の掲載情報、件数ということで載せておりますけれども、直売所が6カ所、認定農業者の方が13名、品目数で258件というふうになっております。今後更に増やしていきたいと思っております。因みに西木のエリアでは、直売所が2カ所86品目、認定農業者の方2人の方が掲載しております。この4月・5月のアクセスされた件数ですけれども、476件という数字が出ております。この後販売情報等を取り纏めしていきたいというふうに考えております。

次に特産品料理教室の開催ということで、先ほどこちちょっとお話ししましたけれども、地産地消の一環としまして、宿泊施設とか飲食店向けの方を対象として、仙北市の名物料理の開発をしたいということで予定してございます。

次に仙北市の隠れたブランド情報発見事業ということで、先ほど観光の方でもお話がありましたけれども、そちらの方と一緒に現在進めております。こちらデータベース化して情報発信したいというふうに思います。

次の地産地消・流通対策・子ども農産漁村プロジェクト・植樹・育樹・水と緑の創造事業につきましては、先ほど農林課長の方から説明がありましたので、省略させていただきます。

後は特産物販売促進ということで、商工課が主管となっておりますけれども、先ほど観光課長の方からもお話ありましたけれども、11月に横浜で仙北市の直売市を行うということで、昨年度は18社が出品しまして、来場して下さった方が1万3千人ほどおりました。

それと最後になりますけれども、首都圏PRセンターの運営ということで、こちらも商工課が主管ですけれども、東京都板橋区の上板橋南口銀座商店振興組合が運営しております、アンテナショップ「とれたて村」に仙北市が平成20年度から出店しております。こちらは首都圏における仙北市の情報発信の拠点とするということで、商工会が窓口となって行っております。昨年度は初年度ということで、売上げそのものは101万ちょっとでございました。その百万の中で生産者の方へ納入した額は78万円ということで、初年度の数字になってございます。

21年度につきましては、2年目になりますので、PR活動・イベントに力を入れて売上げを伸ばしたいということと、上板商店振興組合の方からも仙北市の生

産されている場所を見たいということで、４月に１５名の組合員の方が仙北市を訪れております。

それから板橋区の学校給食に、仙北市産の農産物を供給する予定でございます。その給食提供時に合わせまして、生産者を学校に派遣して PR をするという予定を立てているところでございます。

今年度の４月５月の実績ですけれども、売上げで３５万円程いっております。昨年の４月５月は、１４万６千円という数字ですので、倍以上現在売り上げておりますので、順調に売上げを伸ばしていきたいと思っております。以上で説明を終わらせていただきます。

一、門脇（彰）会長

質問を受けます。

一、浅利委員

農産物販売情報のデータベース化して、インターネットで商品の販売を見れるということですか。また、金銭のやり取りはどのようにしてますか。

一、伊藤重点プロ室長

販売状況を見ることが出来ます。生産者と買う人が直接やり取りしている。

一、澤山委員

上板の場合は、農産物を常時送っていますか。運賃はどのようになっているか。

一、伊藤重点プロ室長

向こうから注文が来てそれに基づいて発送している。年間を通して送っています。買い取り方式です。

一、小林(康)委員

商工会が窓口でやってるんですが、注文が個人で小さい単価の小さい物しか行かないんですよ。話の仕方では、上板橋で大量に買い取りしてもらえれば良いけれども、個人的に豆一束とか、だから金額が増えないし、確実には出ることだけれども、だから増やす方法は考えないといけないと思うし、商工会でも細くて面倒です。旬の物でまとまった物を買って取ってもらえれば、もっともっと金額的にも量も増えると思うし、研究材料です。市の方でも、協力してもらえれば伸びる可能性はあると思う。

一、澤山委員

今、むらっこ物産館で、東京の丸正に出して１０年近くなったんだけど、結局首都圏のお客さんのニーズを把握しておかなければ非常に厳しくなってきた。現場の状況を把握しておかないと、こっちの感覚じゃなくて、お客さんの感覚の情報が一番大事だと思う。こちらにはすばらしい物が一杯あるんだけど、やり方、方法を研究して行かなくちゃならないと思う。

一、門脇（彰）会長

農産物販売のデータベース化というのは、かなり前向きに進んだ形だと思うし、各課が連携して行っていただきたい。アンケートも素晴らしいし、プロジェクトの方で全てに跨ることなのでリーダーシップを発揮して進めていただきたい。3人の方の説明に対する総まとめの質問を許します。

一、小林(清)委員

バイオマス事業ですけれども、1日10トン必要となると厳しいとは思いますが、長続きして貰いたいと思いますので、クリオンの場合でも、ボイラーの代わりに電気を使うとか、電熱を使うとかというような使い方で、経費の削減になると思うので、電気を使う方向でお願いしたい。

一、佐藤農林課長

何れは熱を使うということで、基本的にボイラーは使わないということです。熱交換でお湯を沸かすと。暖房についても、全部車のクーラントのように循環させて、熱を掛けた水を循環させて熱交換をするということです。

一、大澤委員

質問ということではないんですが、大学等の合宿誘致活動ということが載ってたんで、そのことについてなんですけれども、つい先日自転車競技の日本の代表選手が家に1週間ぐらい泊まったんです。この辺を走っていたんですが、秋田のくらい良いとこないって、ここ仙北のことです。何で良いかというと、車が少ない、それから信号が無いと、これほど「練習が出来るところは無い」って語っていきました。こういう過疎地域がその人にしては、良い練習場所になるということもあると思うんです。例えば農家民宿とか、値段さえ安ければ合宿の誘致が意外と出来るんじゃないかと感じたんで、過疎を逆手に考えても良いんじゃないかと思いました。

一、澤山委員

桧木内地域の中山間総合整備事業というのは、今年で終わりじゃないですか。

一、佐藤農林課長

終わりです。

一、澤山委員

まだまだ整備必要な箇所がありますので、引き続きお願いしたい。

一、佐藤農林課長

次の事業の発掘に努めているところです。

一、中村委員

観光産業について頑張っていていただいておりますが、観光地沢山ありますが、子供を遊ばせる場所がない。特別遊園地みたいなものを作って欲しいというつもりはないんですが、今ある施設例えば川であるとか、山であるとか、これから作るであろうクリオンのプールであるとか、バイオマスの施設なんかも、一般の人に

公開して見学できるようにすれば、楽しめる場所になるんじゃないかということで、その辺を大きい意味で検討して貰って、大人も子供も遊びながら楽しめるような、広域的な観光地というのをプログラムしてもらって、やってもらえればありがたいなというふうに思ったりします。例えば河川公園もキャンプが出来るようにすれば、川で子ども達遊ばせて魚を捕らせて、そこでキャンプして、プールで泳ぎたい人はクリオンで泳ぐというふうな感じ、まだまだ可能性は一杯広げれるんじゃないかと思いますし、武家屋敷でも江戸村みたいな感じで、色んな衣装でも着せて記念写真を撮るとか、先日イ・ビョンホンさんが来たんですが、先々使えるものは使っていくような感じで考えて貰いたいなと思います。

一、大澤観光課長

潟前地区には、アスレチック施設がございます。仙北市へ来るお客さんは、比較的年輩の方が多くに思いますが、若い人にも来てもらえるようにと思っています。どんなことが出来るのか洗い出して、子供向けのメニューにつなげていきたい。

一、中村委員

仙北市への観光客は年輩の人が多くという話があったんですが、結局子供が来て遊ぶ場所がないんで、来ないということだと思います。夏休みでも連休でも何処に行くかというのと、岩山パークランドか仙台とか水族館とかふるさと村とかという分野に目も向くし、そっちに行かないと子供が楽しめないという分野だと思いますので、無いところに来てさあ遊べということにはならないと思うので、そこいら変もう少し広い分野で楽しめるような部分を目指して貰えれば、また変わってくるんじゃないかと思うので、考えて貰いたい。

一、高橋企画政策課長

施設がなくても既存の施設を活用することで、そういう遊ばせる工夫、例えば体験プログラムのメニューを作るとかすれば、十分楽しめると思うんです。ここならではの楽しみ方というのは出来ると思います。ただ全然無いという訳にはいかなくて、やはり今言われたような、既存の施設を上手く連携させて、遊び方が出来るような工夫をみんなですしていけば、出来るのかなとは思っています。そのところが少し手つかずでいる部分があるのかもしれないので、みんなで考えてみたいなと思います。

一、小林（康）委員

テンミリオン計画についてお尋ねいたします。私機会がある毎に誘致工場・働く場所ということをやっと述べて参りましたが、誘致工場になるような優良企業も今この通り不景気でございますので無いようでございますが、役所の方ではそういうプロジェクトを作って、専門に仙北市にそういう企業を誘致してくれるよう節をお願いいたします。

それから、そうなればテンミリオン計画にも一緒になってやって行けることでございます。私色々考えていることは、今の病院問題とか、とにかく世の中が先細りなるようなことだけが目に見えるようですので、お医者さん不足・看護師不足なんていうものがございしますが、看護学校を誘致したらどうだろうか、少し研究して進めて貰いたいという風に感じております。あの1回も返事貰ったことがないので、誰が何処に当たって、頑張っているやら分かりませんし、そんなに簡単なことではないということは分かっておりますが、やる気になってやれば何とかなるんじゃないかと思っておりますので、お願いしておきますので是非お願いいたします。

一、伊藤重点プロ室長

誘致関係につきましては、やはりこういうような社会情勢で非常に厳しいということで、プロジェクト室におきましても受入の体制を整備しなければならないと、「来てくれ、来てくれ」とばかり言っても、何処に行けばいいのよと、そういうことがありますので、平成19年度に市の遊休地並びに、財産区の遊休地を調べまして、田沢湖の生保内財産区が所有している場所を、財産区の委員会の方から同意を頂きまして、市の工場誘致候補地として、全国にPRしております。それと西荒井もこの後出てくると思いますが、それと後は誘致活動につきましては、今サポーター制度で企業誘致部門に登録された方が9名おりまして、この方々をお願いをしたところです。その中の1人が、今回の森林作業体験交流会の方に来ておりまして、その方が現地を見せたいということで、案内しております。その情報を基に仙北市の方に来ていただきたいということで、活動していただくというふうにしております。それで大きい企業誘致ではございませんけれども、今空き家のバンクを利用された方で、湖畔に盛岡の木工加工品を作る業者さんですけれども、その会社が今工房を建設中です。それに伴って6人の方が移住してくれるというようなお話になっております。そのようなことで頑張っているところです。

小林委員の方から話ありましたことについては、色々な方法を基に進めていきたいと思っております。

一、小林(清)委員

交流人口一千万人、商工会でも色々運動しているようです。市長にも陳情・要望お願いしておりますが、種苗交換会を招致して貰いたいということでお願いをしたい。JAの組合長さんの話では、仙北市で受入するかな？と疑問なことを言われておりましたので、JAではやりたいと言うことを話しておりましたので、市の方で受入れがあれば、23年あたりに。合併して人口が多くなって、何が出来るかと言えば、そういう種苗交換会とかが良いと思うので、よろしくお願いします。

一、門脇（彰）会長

後半、要望的になりましたけれども、地域審議員の要望は様々な要望と違うと思いますし、今の要望等を市政の方に反映していただければ助かります。

それから、中村委員も言いましたとおり、河川公園の利用者が非常に最近多くなっております。あそこの中で子供の一番の人気は、砂場のバックフォーです。それから、水遊びする場所、あそこは伏流水です。秋田県で1カ所しかない場所です。普段は鍵を掛けております。子ども達を遊ばせても汚くないもんだから、評判が良いんです。角間川小学校とか他にも何校かありますが、父兄が覚えて子供を連れて遊びに来ております。小さなことですがけれども大切なことだと思いますので、参与の方々は頭の中に入れておいていただきたいと思います。

なお、河川公園の利用者ですが、10数台泊まっています。東屋の方にテントを設営している人もいたようですが、今日はグランドゴルフをやるということでのようです。茨城ナンバーも見えたようです。

他に何かありませんか。

先ほど申し上げたとおり本日は結論の出す審議ではございませんので、これを踏まえて後2回の審議の中で、提言していくというかたちでお願いします。無ければ以上で審議を終了します。

（午後4時20分）